

# 戦後の医学図書館への China Medical Board 財団による資金援助

## －長崎大学附属図書館医学部分館の場合－

松村悠子

長崎大学附属図書館

### China Medical Board ; 図書館史

1950年代から1970年代までの間に、日本の医学図書館の多くが China Medical Board 財団（以下、CMB）の援助を受けた。援助の内容は、資料の寄贈や図書館施設の建設における資金援助や資料の寄贈である。中でも図書館施設の建設では、1959年の大阪大学中之島図書館から1965年の京都大学医学図書館まで計8館が建築・増改築などに際してCMBから資金援助を受けている。

その中で、1945年の原子爆弾投下により、施設・資料・人員の全ての面で甚大な被害を受けた長崎大学附属図書館医学部分館（現：医学分館）への援助について調査を行った。

昭和 20(1945)年	8月9日、原子爆弾により長崎医科大学及び同附属医院は壊滅状態。
24(1949)年	国立学校設置法により国立長崎大学医学部が設置。長崎医科大学附属図書館は、長崎大学附属図書館医学部分館となる。
27(1952)年	基礎医学教室着工（鉄筋コンクリート3階建て3棟、床面積16,500 m <sup>2</sup> ）
28(1953)年	旧長崎医科大学図書館書庫2棟を改修、医学部分館として使用。
32(1957)年	文科省の方針変更のため、基礎医学教室の工事が打ち切りとなる（床面積11,550 m <sup>2</sup> ）。
36(1961)年 12月	CMBより図書館内部設備費（書庫設備、電気設備、エレベーター、ルームクーラーなど）として5万ドル援助する旨の通知を受ける。
37(1962)年	日本政府より図書館建築に5千万円が承認される。
38(1963)年 3月	医学部分館竣工（閲覧室及書庫）
38(1963)年 4月	医学部分館落成式。CMBより Dr.Connell 氏夫妻来学。